

跡見学園女子大学
人文学フォーラム

執筆者紹介 (五十音順・敬称略)

- 池田光義 IKEDA Mitsuyoshi (兼任講師・西洋思想史)
石田信一 ISHIDA Shinichi (助教授・西洋文化史)
遠藤潤一 ENDO Junichi (教授・国語学)
神山伸弘 KAMIYAMA Nobuhiro (教授・西洋思想史)
北澤憲昭 KITAZAWA Noriaki (教授・日本近現代美術史)
木下高德 KINOSHITA Takanori (教授・現代アメリカ文学)
城田由美子 SHIROTA Yumiko (教授・体操と舞踊)
福田立明 FUKUDA Tatsuaki (教授・英米文学)
村越行雄 MURAKOSHI Yukio (教授・言語哲学)
山口 榮 YAMAGUCHI Sakae (教授・中国近代思想史)
山崎博子 YAMAZAKI Hiroko (教授・生物学)
山田英教 YAMADA Hidenori (教授・英米演劇)
横田恭三 YOKOTA Kyozo (助教授・書道史)
小山田紀子 OYAMADA Noriko (吉備国際大学社会学部助教授・マグレブ地域研究)

編集後記

本誌の体裁・構成等は概ね創刊号、第二号の様式を踏襲した。

表紙の絵は引続き花蹊記念資料館学芸員のお世話になり、恰好の絵を選んで頂いた。

巻頭の文は連絡委員長の山田英教先生にお願いし、その呼称は第二号に準じて「巻頭エッセイ」とした。

編集は、初め暢気に構えていて、何かと取掛りが遅く、就中、特集論文の主題設定とその原稿依頼については、時宜を逸してしまった。

その主題は、迷雾の中にあつて、容易には決まらなかったが、C・ドレイク教授の「文化多元主義の可能性」というのは如何であろうかとの提案があり、昨今、天災・人災相次ぐのに鑑み、二十一世紀の世界文化如何に係る論考を試みることにしたのである。

これについては世界の代表的文化を多く見ることを要するが、本誌ではその極く一部に止まっている。

過日の人文学科主催学術講演会の講演要旨を本誌に掲載できたことは、その点、幸甚であった。

投稿論文は四篇の予定のところ二篇に減り、厳しい状況となったが、研究ノートが急遽一篇増えて二篇となった。

退職なさる先生方は、此の度は五名である。永年勤続の先生方であり、万感胸に迫るメッセージを寄せて下さった。

編集不慣れもあり、入稿が甚だ遅くなって種々御迷惑をお掛けし、遺憾に思うところであるが、殊に印刷に当られた株早稲田大学メディア・ミックスの担当の方々、並びに本学庶務、会計の係の方々が、これを御海容の上、本誌の年度内発刊を可能にして下さったことに心から感謝する次第である。

(山口)